

ご挨拶

2021年8月21日・22日、第34回日本語教育連絡会議が前年に引き続きオンラインで開催されました。2日間で25本の発表があり、日本をはじめ、リトアニア、チェコ、ベルギー、ポーランド、クロアチア、ラトビア、フランス、スロベニア、オーストリア、ドイツ、ハンガリーから58名が参加しました。

2019年の連絡会議で、「リトアニアの国会で『杉原千畝の年』と正式に認定された2020年は、ぜひカウナスで開催を！」と勢いよく手を挙げたものの、2020年はCovid-19の影響を受けて、現地での開催が叶わず、延期をお願いしました。2021年こそはと思っていたのですが、やはり状況が許さず、結局オンラインでの開催となりました。

せっかく初めてリトアニアで開催するのだから、緑豊かな8月のカウナスを自慢したかったなあと残念に思っていました。しかし、「ヨーロッパまで行くのは無理だけど、オンラインだから参加できました」という声や、質問・コメントフォームでの活発なやり取り、部屋の掃除しながら参加していたというお話など、オンラインならではの良さもたくさん感じられました。

今回の連絡会議でも、多くの興味深い研究発表や実践報告があり、発表者の皆様のおかげで、実りの多い2日間となりました。

また、開催前から、質問・コメントの収集方法や資料の配布方法などのアドバイス、お手伝いのお申し出など、有難いメッセージをたくさんいただきました。本当にありがとうございます。

当日は運営スタッフとして本学のシモナ・クンペ先生、卒業生のジーギマンタス・ヴァイチュスさん、在学生のアルマンタス・ヴィトカウスカスさん、トマス・ユオズヌキスさんががんばってくれたおかげで、長時間のオンライン会議を無事に乗り切ることができました。リトアニアで日本語教育に取り組む仲間と一緒に、この連絡会議に関われたことを嬉しく思います。

最後になりましたが、ご参加くださったすべての皆様に心から感謝を申し上げます。今後も日本語教育連絡会議が多くの日本語教育者の大切な居場所であり続けることを願っております。

ヴィータウタス・マグヌス大学

アジア研究センター

高木 伽耶子